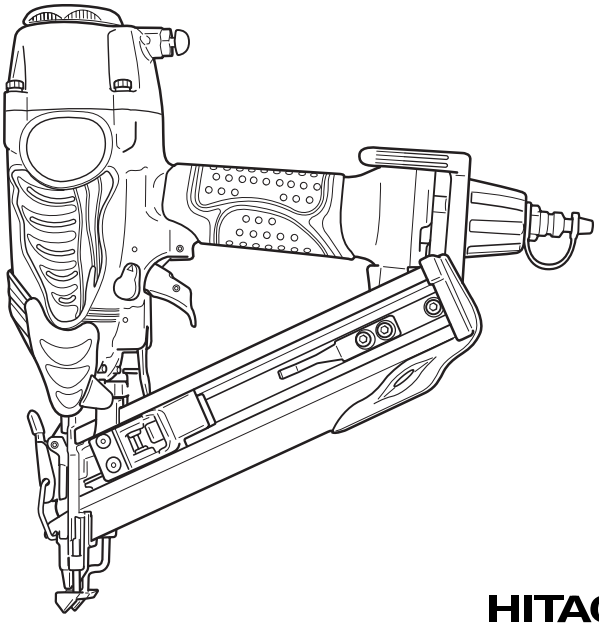
Hitachi Koki

日立高圧フロア用釘打機
（エアダスタ付）

NT 50HMF

取扱説明書

このたびは日立高圧フロア用釘打機をお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



HITACHI

目　次

ページ

高圧釘打機の安全上のご注意 …… 2
各部の名称 …… 8
仕様 …… 9
釘の選び方 …… 9
標準付属品 …… 9
用途 …… 10
作業前の準備 …… 10
ご使用前に …… 11
使い方 …… 14
保守・点検 …… 20
エアコンプレッサと作業の速さ …… 22
使用潤滑油 …… 22
ご修理のときは …… 裏表紙

⚠警告、⚠注意、注 の意味について

ご使用上の注意事項は「⚠**警告**」と「⚠**注意**」に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。また、「**注**」の意味も説明します。

⚠警告 ： **誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。**

⚠注意 ： **誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。**

なお、「⚠**注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

注 ： **製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。**

高圧釘打機の安全上のご注意

- けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

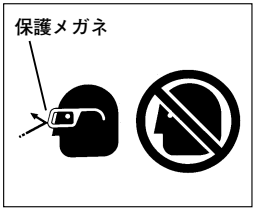
⚠ 警　告

作業前

① 保護メガネを使用してください。

- 作業中は、保護メガネを使用してください。
- まわりの人にも保護メガネをかけさせてください。
  釘を連結している接着剤やテープの破片、打ち損じの釘が目に当たると、けがの原因になります。

①



② エアコンプレッサ以外の動力源は使用しないでください。

本機は、エアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（酸素、アセチレン、プロパンなど）を使用すると、爆発の恐れがあり、事故の原因になります。

②

③ 高圧釘打機用エアコンプレッサと、専用の高圧エアホースを使用してください。

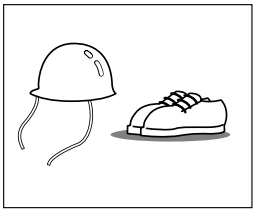
- この機体は、使用圧力を一般圧の釘打機より高く設定しています。高圧釘打機用エアコンプレッサと専用の高圧エアホースを使用してください。
- この機体およびこれらのエアコンプレッサ、エアホースのエアプラグ、エアソケットも専用となっており、一般圧のものと接続できないようにしてありますので、改造をしないでください。
  これら以外のものを使用すると事故の原因になります。

④ 機体の排気音や排気空気から耳を保護するため、防音保護具を着用してください。

⑤ 作業環境に応じてヘルメット、安全靴などの防具を着用してください。

⑥ きちんとした服装で作業してください。

⑤



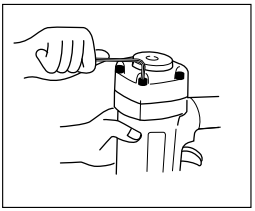
⚠ 警　告

⑦ エアホースを接続する前に、次の点検をしてください。

- ネジ類がゆるんでいないこと。
- 損傷したり、はずれている部品がないこと。
- さび付きなどで、正常に動作しない部品がないこと。
- プッシュレバーがスムーズに動くこと。

異常のあるまま使用すると、けがや機体の破損の原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⑦

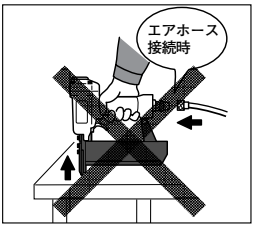


⑧ エアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- 引金に手を触れない。
- プッシュレバーの先に触れたり、押し上げた状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。

誤って釘が発射した場合、けがの原因になります。

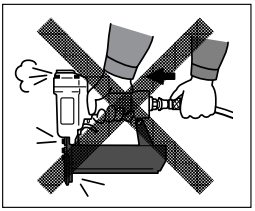
⑧



⑨ 釘を装てんする前に、エアホースを接続し、次の点検をしてください。

- エアホースを接続しただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
  空気漏れや異常音がしないこと。
- 異常のあるまま使用すると、事故やけがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⑨



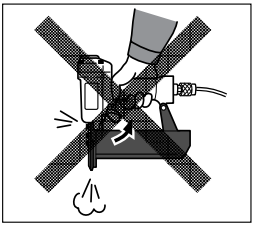
⑩ 使用前に安全装置の確認をしてください。

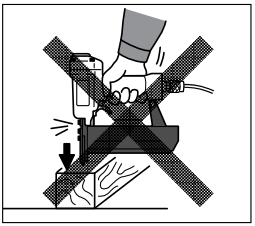
本機は、プッシュレバーと引金の両方を作動させないと、釘が発射されない構造になっています。
釘を装てんする前に、エアホースを接続し、ネイルフィーダを後方に引いて次の確認をしてください。

- 引金を引いただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
- プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけで、ピストンなどの作動音がしないこと。

異常のあるまま使用すると、けがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⑩





⑪ 用途にあった作業に使用してください。

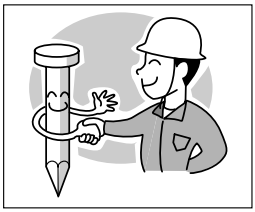
本機は、木材または類似の材料への釘打ち作業を目的とした工具です。
指定された用途以外には使用しないでください。

⚠ 警　告

⑫ 指定の釘を使用してください。

指定された釘以外のものを使用すると、けがや本機の故障の原因になるので使用しないでください。

⑫



⑬ 子供を近づけないでください。

- 作業者以外、釘打機本体やエアホースに触れさせないでください。けがの原因になります。
- 作業者以外、作業場へ近づけないでください。けがの原因になります。

⑭ 作業場は、いつもきれいに保ってください。

- ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。作業場は十分に明るくしてください。
- 暗い場所での作業は、事故の原因になります。

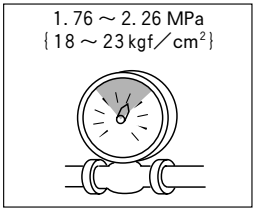
⑮ 作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

作業中

① 指定の空気圧力で使用してください。

- 本機の使用空気圧力範囲は 1.76 ～ 2.26 MPa {18 ～ 23 kgf／cm²} です。この範囲内で使用してください。
  2.26 MPa {23 kgf／cm²} を超えた空気圧力で使用すると、機体の破裂や損傷の恐れがあり、けがの原因になります。

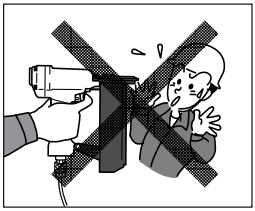
①



② 人体に射出口を向けないでください。

人体に射出口を向けて、誤って発射した場合、思いがけないけがにつながります。

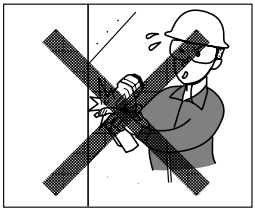
②



③ 射出口付近に顔や手、足などを近づけて作業しないでください。

誤って釘が発射したり、はね返って飛んだときなど、けがの原因になります。

③



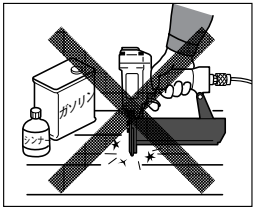
④ 釘を打ち込む材料の裏側に、手や身体を置かないでください。

釘が突き抜けたり、材料が欠けたときなどに、けがの原因になります。

⑤ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

- 可燃性の液体やガス（シンナー、ガソリン、塗料、ガス類など）のある所で、本機やエアコンプレッサを使用しないでください。
  釘を打ち込むときの火花による引火や、空気といっしょに吸引圧縮され、爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

⑤



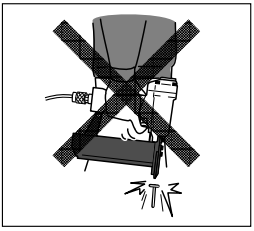
⚠ 警　告

⑥ 釘を打ち込むとき以外は、引金に指をかけないでください。

- 引金に指をかけて、持ち運びしたり、手渡しなどをしないでください。
- 釘を装てんするときや調整などをするときは、引金に指をかけないでください。

誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑥



⑦ エアダスタバルブを使用するときは、次のことに注意してください。

- 引金に手を触れない。
- 人体に吹き出し口を向けない。
- プッシュレバーの先に触れたり、押し上げた状態にしない。

誤って釘が発射した場合、けがの原因になります。

⑦

⑧ 調圧器で打ち込み調整をするときは、引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑨ ノーズキャップの着脱をするときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

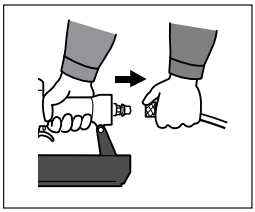
誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑩ フックを使用するときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

- フックでつり下げるときは、必ず引き金から指をはなし、エアホースをはずしてください。

誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑩

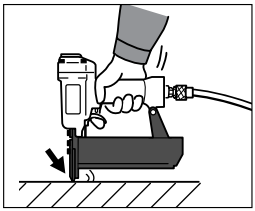


⑪ 次の場合は、エアホースをはずし、圧縮空気を抜いてください。

- 使用しない場合や作業中断時、使用後。
- 点検・修理・調整、釘づまりの直しなどの場合。
- 釘を装てんする場合。
- 釘打機を移動する際や手渡しする場合。

誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑫



⑫ 引金に指をかけた状態でエアホースをはずさないでください。

引金に指をかけた状態でエアホースをはずすと、次にエアホースをつないだとき、誤って釘が発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⚠ 警　告

⑬ 釘を打つときは、射出口を確実に対象物に当ててください。

- 一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。
  釘がはね返ったり、本機が反発することもあり、けがの原因になります。

⑭ 作業中はまわりの人に注意してください。

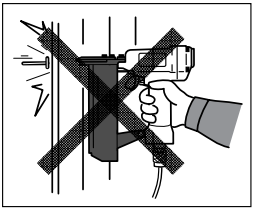
釘を連結している接着剤やテープの破片、打ち損じた釘が当たる恐れがあり、けがの原因になります。

- 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。
  機体や材料を落としたときなど、事故の原因になります。

⑮ 薄い板や木材の端に釘を打たないでください。

薄い板に打つと釘が突き抜けたり、木材の角に打つと釘がそれたりして、けがの原因になります。

⑮



⑯ 機体の反発に注意してください。

- 硬い所に打った場合、本機がはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

⑰ 壁の両側から同時に釘打ち作業をしないでください。

打った釘が突き抜けたり、壁ぎわの釘がそれたりして、けがの原因になります。

⑰

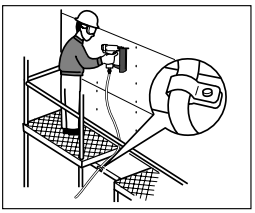
⑱ 無理な姿勢で作業をしないでください。

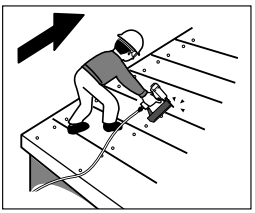
- 常に足元をしっかりさせ、バランスを保つようにしてください。
  転倒して、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、釘打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。
  けがの原因になります。

⑲ 屋外での作業は、次のことに注意してください。

- 高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに固定してください。
  不意にエアホースを引っかけたりした場合、けがの原因になります。
- 屋根などの斜面で釘を打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。
  後退しながら作業すると、足を踏みはずす恐れがあり、けがの原因になります。

⑲





⚠ 警　告

- 床などの水平面で釘を打つときは、前進しながら作業してください。
  後退しながら作業すると、足をとられ、けがの原因になります。
- 壁などの垂直面に釘を打つときは、上から下へ作業してください。

⑳ 油断しないで十分注意して作業を行なってください。

- 釘打機を使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、まわりの状況など、十分注意して慎重に作業してください。
- 常識を働かせてください。
- 疲れているときは、使用しないでください。

㉑ エアホースをつかんで機体を移動しないでください。

㉒ 誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。

内部の圧縮空気で破裂の恐れがあり、けがの原因になります。

㉓ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常を感じたときは、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。

そのまま使用していると、けがの原因になります。

㉓

作業後

① 作業後は、エアホースをはずしてから、釘を全部抜き取ってください。

釘を残しておくと、次に使用するときに、誤って作動させた場合など、けがの原因になります。

①

② 釘打機やエアコンプレッサ、エアセットは直射日光に長時間当てたまま放置しないでください。

③ 釘打機は、注意深く手入れをしてください。

- 安全に能率よく作業していただくために、釘打機は常に手入れをし、清潔に保ってください。
- 付属品の交換は、取扱説明書に従ってください。

⚠ 警　告

④ **使用しない場合は、きちんと保管してください。**

- 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。

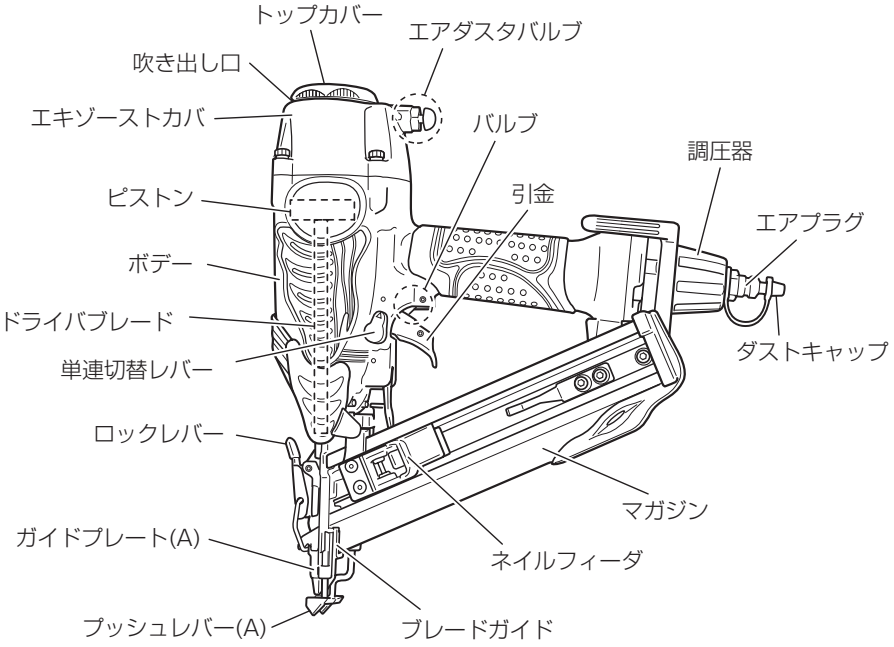
⑤ **部品をはずしたり、改造をしないでください。**

安全性が損なわれ、けがの原因になります。

⑥ **釘打機の修理は、専門店に依頼してください。**

- 修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。
  ご自分で修理すると、事故やけがの原因になります。

各部の名称



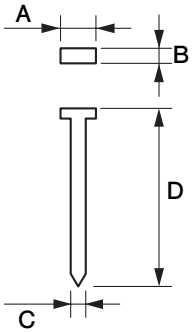
仕　　様

動　力　形　式	ピストン往復動式
使用空気圧力	1.76～2.26 MPa｛18～23 kgf／cm²｝
能　　力（使用釘）	T1832F、T1838F、T1845F、T1850F、
釘の装てん数	55本（43本（1連）＋12本）
製品の大きさ	長さ312㎜×高さ310㎜×幅80㎜
製　品　質　量	1.8 kg
釘　送　り　方　式	うず巻ばね式
使用エアコンプレッサ	日立高圧エアコンプレッサ　EC1430H2
使用エアホース	日立高圧エアホース 内径5㎜－長さ10 m、20 m、30 m 内径6㎜－ 長さ10 m、20 m、30 m

釘の選び方

本機は、下の表に示す指定釘をご使用ください。

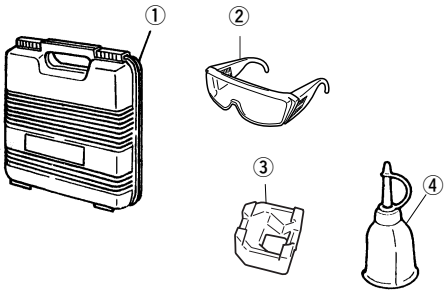
釘は約43本が1連に連結されています。寸法はおおよその値を示しております。釘はこの釘打機お買い上げの販売店でお求めください。



（寸法単位：㎜）

釘	A	B	C	D
T1832F	3.3	1.83	1.83	32
T1838F				38
T1845F				45
T1850F				50

標準付属品



① ケース ･････････････････ 1個
② 保護メガネ ･････････････ 1個
③ ノーズキャップ ･･････････ 1個
④ 油さし ･････････････････ 1個
（釘打機・タッカ用オイル入り）

用　　途

○ フローリング施工
○ 建築内装材の釘止め

注 • **堅い材料（単層むく材）に打ち込むと、材料の種類や木目によっては割れる場合がありますので、試し打ちして確認の上、ご使用ください。**

作業前の準備

○騒音防止規制について
騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。
ご近所に迷惑をかけないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。
状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

作業前に次の準備をすませてください。

1．エアコンプレッサ、エアホースの準備

この機体は、使用圧力を一般圧のタッカより高く設定しています。使用するときは、高圧釘打機用エアコンプレッサと専用の高圧エアホースを準備してください。この機体に使用できる高圧エアホースの内径は５mm以上です。エアホースをエアコンプレッサにしっかり接続してください。

⚠ 警　告

- **この機体は、使用圧力を一般圧のタッカより高く設定しています。高圧釘打機用エアコンプレッサと、専用の高圧エアホースを使用してください。**
- **この機体およびエアコンプレッサ、エアホースのエアプラグ、エアソケットも専用になっており、一般圧のものと接続できないようにしてあるので、改造しないでください。**

注
- **エアホースの長さは、30ｍ以内のものを使用してください。**
- **エアホースが長いと圧力降下をして十分な打ち込み力が得られません。**

2．エアコンプレッサ内のドレンを除去する……

水や油が内部にたまりますと、さびが発生したり故障の原因になります。ご使用前後には、エアコンプレッサの空気タンクのドレン抜きをゆるめて、内部にたまった水や油を除去してください。乾燥した清浄な圧縮空気を使用してください。（詳細はエアコンプレッサの取扱説明書をご参照ください。）

3．釘の準備……

用途にあった釘を準備してください。（９ページ参照）

4．安全点検

⚠ 警　告

- **子供など作業者以外は近づけないでください。**
- **ネジ類がゆるんでいないことを、十分に点検してください。**
- **損傷したり、はずれている部品や、さび付きなどで、正常に動作しない部品がないことを点検してください。**

20ページの「保守・点検」を参照し、必ず行ってください。

ご使用前に

⚠ 警　告

- **可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。**

1．空気圧力の確認

⚠ 警　告

- **この機体の使用空気圧力の範囲は 1.76 ～ 2.26 MPa｛18 ～ 23 kgf／cm²｝です。この範囲内で使用してください。**

空気圧力は、1.76 ～ 2.26 MPa｛18 ～ 23 kgf／cm²｝の範囲でお使いください。

空気圧力が 1.76 MPa｛18 kgf／cm²｝未満または 2.26 MPa｛23 kgf／cm²｝を超えますと本機の性能、寿命、安全に影響しますので、使用空気圧力の範囲内で使用してください。

2．給油について

注
- **付属の高圧釘打機用の油さしは、ノズルに穴があいています。先端を切らずに使用してください。**
- **高圧釘打機用の油さしは、中栓がしてありますので、中栓を取りはずしてからご使用ください。**
  また、ご使用にならないときは中栓をして保管してください。

○ 必ず1日に2回以上給油してください。給油は、作業の前後に2mL｛2cc｝程度の油をエアホース取付口から入れてください。作業前の油は潤滑油となり、作業後の油はさび止めとなります。

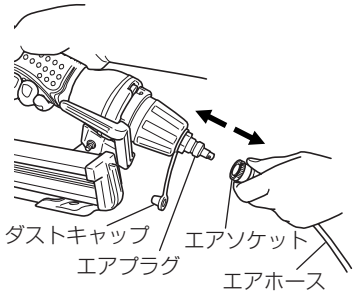
注
- **給油直後空気を通すと、しばらくの間油が排気口より噴霧状に飛び散りますので、油がかかっても支障のない所で2～3本釘を打ってから作業してください。**
- **作業後給油した場合、釘を1本打ちますと油が内部に行き渡ります。**

○ 油は付属の油をご使用ください。その他、使用できる油を22ページに示しますので、これらの油をお使いください。なお、混用は避けてください。

3．エアホースを接続する

⚠ 警　告

機体にエアホースを接続するときは、次のことに注意してください。
- **引金に手を触れない。**
- **プッシュレバーの先を台や床などにのせて、押し上げた状態にしない。**
- **射出口を人体に向けない。**



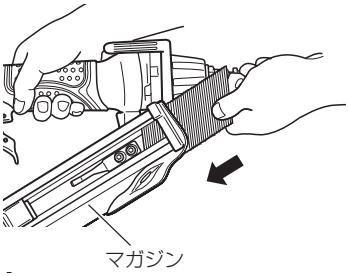
○ エアプラグからダストキャップをはずします。
○ ごみやほこりが内部に入らないよう、エアプラグの口元のごみをふき取ります。
○ エアソケットをエアプラグにしっかりとさし込んでエアホースを接続します。

注 • **エアホースを接続した直後、調圧器から一時的に空気が排出されることがありますが、これは故障ではありません。**

4．釘を入れる

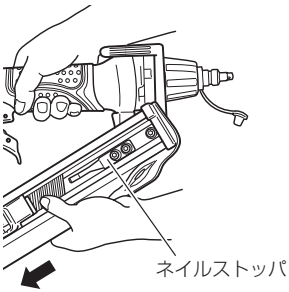
⚠ 警　告

- **釘を装てんする場合は、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。**

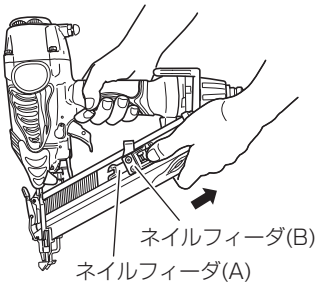


注 • **釘は６本以上連結されたものを使用してください。**

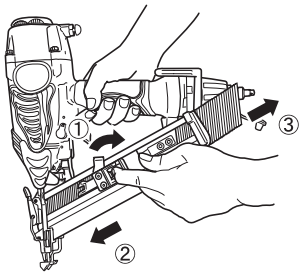
○釘をマガジン後方から入れます。



○ 釘の連結後端がネイルストッパを越えるまで前方へ送ります。



○ ネイルフィーダ（B）をマガジン後方へ引いて、ネイルフィーダ（A）が釘の連結後端を押すように静かに戻します。



○ 釘をマガジンから取り出すときは、①ネイルフィーダ（A）を押して、②ネイルフィーダ（B）を釘の前方へ移動させます。

注 • **ネイルフィーダ（A）（B）を急に離すと、急激に戻り、釘が変形したり、ばらばらになったりして、釘づまりの原因になります。ネイルフィーダは必ず静かに戻してください。**

使　い　方

⚠ 警　告

- **作業中は、必ず保護メガネを使用してください。**
- **作業中は、まわりの人の安全確保にも十分注意をはらってください。**
- **人体に射出口を向けないでください。**
- **射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。**
- **一度打った釘の上に、再度釘を打つことはしないでください。**
- **フックを使用するときは、エアホースをはずしてください。**

注 • **低温時に使用すると、機体の動作が悪くなることがあります。**

○ 安全装置について

この機体は、プッシュレバーと引金が同時に作動しないと、釘が発射されない構造になっています。したがって、引金を引いただけのとき、または、プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけで、釘は発射しません。これは、誤って引金を引いたり、プッシュレバーを押し当てただけで、釘が発射されることを防ぐためです。

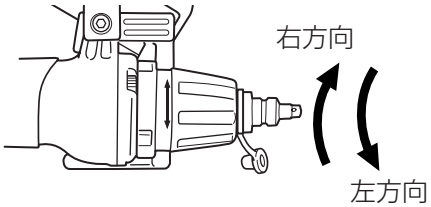
1．調圧器について

⚠ 警　告

- **調圧器で打ち込み調整をするときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。**

この機体は、釘打ち込み能力（釘の長さ、部材の硬さなど）に応じて出力を無段階に変えられる調圧器が付いています。

調圧器を右方向（目盛りが大きくなる方向）へ回転すると打ち込み能力が強くなり、左方向（目盛りが小さくなる方向）へ回転すると弱くなります。



注 • **調圧時、調圧器から一時的に空気が排出されることがありますが、これは故障ではありません。**

（次ページへつづく）

この調圧器は、高圧エアホース側の圧力１．７６～２．２６MPa｛１８～２３kgf／cm²｝を一般圧（０．３９～０．７８MPa｛４～８kgf／cm²｝前後）に減圧しています。

調圧器内にごみなどが入ると、密封性が低下し、この状態でエアホースをつないだまま長い間放置すると、徐々に機体内の圧力が上がってリリーフ弁が作動して調圧器から空気が排出されることがあります。

リリーフ弁は、機体内の圧力が１．０MPa｛１０kgf／cm²｝以上の高圧になると作動して、調圧器から空気を排出しながら機体内の圧力を減圧するための部品です。

万が一、リリーフ弁が作動して空が排出された場合は、次の手順にしたがって状態を確認してください。空気の排出が止まれば正常です。

①すぐにエアホースをはずします。

②エアコンプレッサの圧力が１．７６MPa｛１８kgf／cm²｝以上に復帰するまで待ちます。

③エアホースをつなぎなおします。

（１回で空気の排出が止まらない場合は、①～③の手順を数回繰り返してください。）

上記①～③をおこなっても調圧器から空気を排出し続ける場合は、調圧器の故障ですので、ただちに作業を中断してエアホースをはずし、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

２．釘の打ち方

この機体は、打ち込み対象物によって、効果的な使い方ができるように単連切換え機構を装備しています。

この機体はおもにフローリング（床張り）作業を目的とした製品です。狙い打ちを確実にするため、「単発打ち」での使用をお勧めします。

(1) 単発打ち

単連切換レバーを上向きの単発位置にセットしてください。

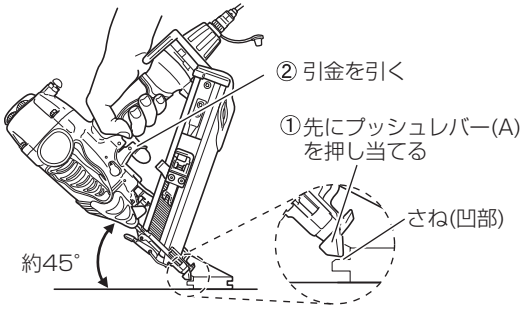
⚠ 注　意

- **単発打ちでも、引金は素早く、確実に引いてください。引金を素早く、確実に引かないと、打ち込み時の反動で連続打ちすることがあります。**

単発打ちは、仕上げを重視する場合や狙った場所に釘を打つ場合に使用します。打ち込む所にプッシュレバーを押し当て、引金を引く動作で、釘を一本ずつ打つことができます。

注 • **狙った所に釘を打つ場合は、単発打ちで作業してください。**

フローリング作業はフロア材の浮上がりを防止するため、本体の打ち込み角度は約45°にし、プッシュレバー（A）（フロア打ち用）の先端凸部をフロア材のさね（凹部）に確実に当てて打ち込むようにしてください。



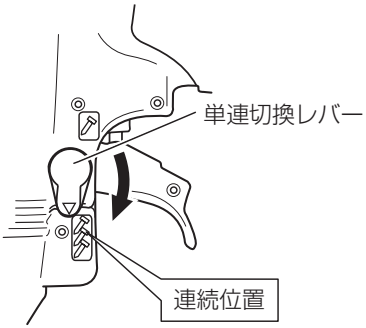
(2) 連続打ち

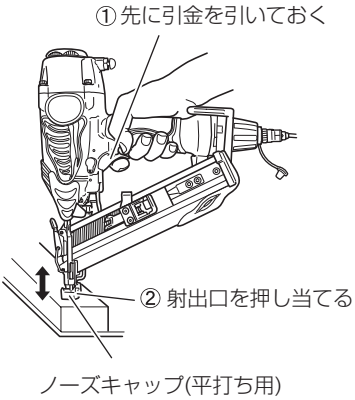
⚠ 警　告
• ノーズキャップの着脱をするときは、エアホースをはずしてください。

○ **単連切換レバーを下向きの連続位置にセットしてください。**

連続打ちは、はじめに引金を引いておき、その後、釘を打つ所に射出口を「トン・トン・トン」と押し当てれば、連続的に作業ができます。

標準付属品のノーズキャップを取付けると、平打ちする場合に便利です。





(3) 作業中断時、使用後のご注意

⚠ 警　告
• 使用しない場合や作業中断時、使用後はエアホースをはずしてください。 • 作業後は、エアホースをはずしてから、釘を全部抜き取ってください。

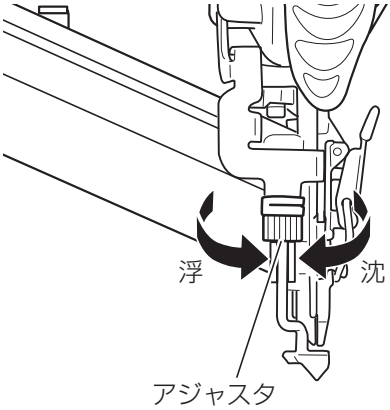
注 • **作業後は、エアコンプレッサの空気を抜いて、空気圧力を 0 にしてください。ドレン抜きをゆるめると、タンク内のドレンが除去されると同時に、圧縮空気が抜けて空気圧力が 0 になります。**

3．打ち込み深さの調整

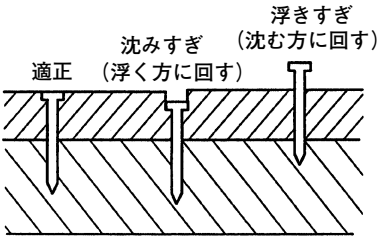
⚠ 警　告

- **打ち込み深さの調整は、アジャスタによって行います。アジャスタの調整をするときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。**
- **アジャスタの調整をするときは、射出口を下に向け、顔や手、足などの人体がないことを確認してください。**

(1) アジャスタの調整



○本機は、アジャスタを回すことにより、打ち込み深さを調整できます。
○試し打ちし、釘が沈みすぎるときはアジャスタを**浮**➡の方に回します。
○釘の頭が浮くときはアジャスタを**沈**⬅の方に回します。

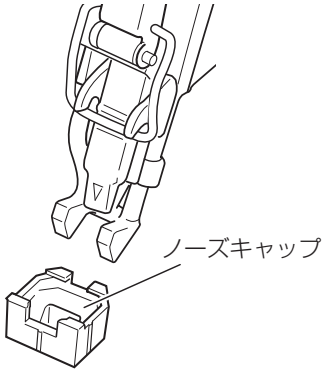


注 • **打ち込み深さの調整は、使用空気圧力によっても調整できるのでアジャスタの調整と併用してください。**
釘の打ち込み抵抗に合わない高い圧力で使用すると機体の寿命を早めます。

4．ノーズキャップの使い方

⚠ 警　告
• ノーズキャップの着脱をするときは、エアホースをはずしてください。

平打ちする場合、木材などの表面をプッシュレバーで傷付けたくないときは、プッシュレバーの先端にノーズキャップを取付けてください。



(1)　ノーズキャップの着脱

○ノーズキャップはプッシュレバーに押し込むだけで取付けられます。

○ノーズキャップのラインを本体の前方として、プッシュレバーに引っかかるまで押し込みます。

5．空打ち防止機構について

この機体は釘がなくなったあとの空打ちを防ぐため、空打ち防止機構を備えております。釘の残りが３～５本以下になると、プッシュレバーが上がらず、引金を引いても打てなくなります。また、釘を１連打ち終わると３～５本の釘が残りますが、釘を後ろから装てんすれば、続けて釘を打つことができます。

注
- **ネイルフィーダを後方に引くと、空打ち防止機構が無効になります。不要な空打ちは各部に悪影響を与えるので避けてください。**
- **プッシュレバーを押し当てたままでの打ち込み作業では、空打ち防止機構は無効になるので注意してください。**
- **釘が３～５本以下になり、プッシュレバーが上がらない状態でプッシュレバーを強く押し当てると、空打ち防止機構が誤作動し、ピストンが動作することがあるので、強く押し当てすぎないように注意してください。**

6．エアダスタバルブの使い方

⚠ 警　告

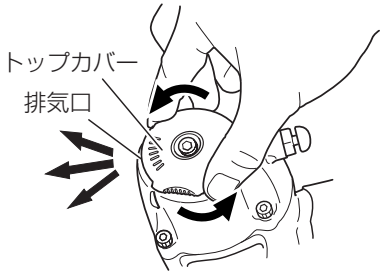
- **エアダスタバルブを使用するときは、必ず引金から指をはなしてください。**
- **人体に吹き出し口を向けないでください。**
- **プッシュレバーを押し当てたまま、エアダスタバルブを使用しないでください。**

この機体は、作業中に発生する木くずなどを吹きとばすためのエアダスタを備えています。

親指でエアダスタバルブを押して使用してください。

注
- **機体に給油した直後、エアダスタバルブを使用すると油が吹き出し口より噴霧状に飛び散る場合があるので、油がかかっても支障のない所で2～3秒試し吹きしてから作業してください。**
- **エアダスタバルブを長時間使用すると、一時的に打ち込み力が低下する場合があります。このときは、空気の供給圧力が安定してから作業を始めてください。**

7．排気方向の変え方



⚠ 警　告

- **排気方向の調整をするときは、必ず引金から指をはなし、エアホースをはずしてください。**

排気口の向きは、トップカバーを回すことにより360°の範囲で変えることができます。

8．釘の取扱い方

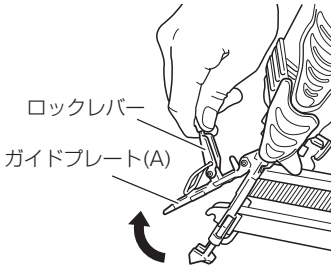
注
- **釘の扱いをていねいにしてください。落とすと、連結部が切れます。また、そのままの状態で使用すると釘送り不良により、空打ち、釘づまりなどが発生するため、使用しないでください。**
- **釘は長時間外気や直射日光にさらさないでください。さびの発生や、連結部に不具合が生じる場合があるので、使用しないときは釘梱包箱などに入れてください。**

保守・点検

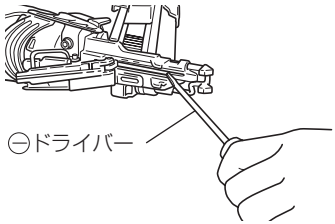
⚠ 警　告

- **釘づまりを直すときや点検・手入れの際は、必ずエアホースをはずし、釘を全部抜き取ってください。**

1．釘づまりの直し方



○ ロックレバーをはずし、ガイドプレート（A）を開きます。



○ 案内溝につまった釘、破片、接着剤、木くずなどを⊖ドライバーなどで取り除きます。

注 • **ドライバブレードの先端が摩耗すると、釘づまりが発生しやすくなります。釘づまりが多発するようでしたら修理に出してください。**

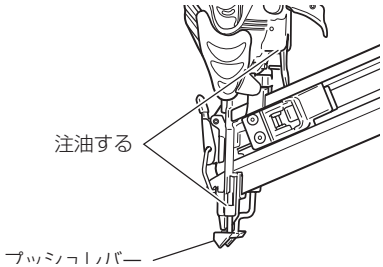
2．各部取付けねじの点検

各部取付けねじでゆるんでいるところがないか、定期的に点検してください。ゆるんでいるところがある場合は、締め直してください。

3．ごみ・ほこりの防止

使用しないときはエアプラグにダストキャップをつけ、機体内にごみが入るのを防いでください。

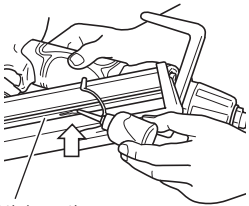
4．プッシュレバーの点検



プッシュレバーがスムーズに摺動するか確認してください。

プッシュレバーの摺動部は掃除し、ときどき付属の油を注油してください。油を注ぐことにより動作がスムーズになると同時にさび止めにもなります。

5．マガジンの点検



○ マガジンをときどき掃除してください。
中にたまったごみ、木くずなどを取り除いてください。

○ ネイルレールにはときどき注油してください。（図21）

6．作業後の保管は

⚠ 警　告
• **作業後は、釘を全部抜き取ってください。**

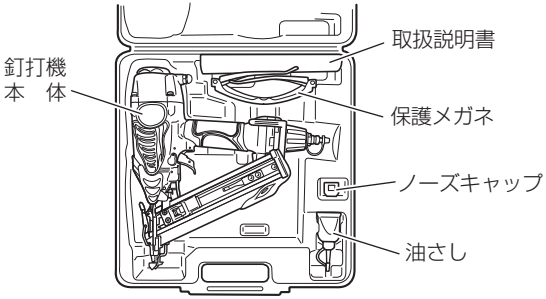
注 • **エアプラグにダストキャップをさし込むときは、機体をさかさにして十分水抜きしてからさし込んでください。**

○ 作業後、機体の内部にごみやほこりが入らないよう、ダストキャップをエアプラグにさし込み、ケースに入れて保管してください。また、取りはずしたノーズキャップはケースのノーズキャップ収納位置に収納してください。機体と付属品は下図にようにケースに入れてください。

○ 長期間使用しない場合は、
- さび防止のため、エアホース取付口から給油し、２、３回空打ちして油を内部に行き渡らせてください。
- 鉄の部分やバルブの部分には油をうすく塗布してください。
- 油は、付属の油をご使用ください。その他、使用できる油を次ページに示しますので、これらの油をお使いください。なお、混用は避けてください。

○ 気温が下がると、ゴム製部品の収縮で空気が漏れ、始動が悪くなる場合がありますので暖い場所に保管してください。

○ お子様の手の届かない乾燥した場所に保管してください。



エアコンプレッサと作業の速さ

高圧釘打機用エアコンプレッサを使用する場合の作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）は、下表を目安にしてください。

作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）

使用空気圧力 ＼ 高圧釘打機用エアコンプレッサ	1.76～2.26 MPa {18～23 kgf／cm²}
EC 1430H 2	140～110 本

○連続してステープル打ち作業をする場合には、別売の補助タンク（高圧対応）の使用をおすすめします。

使用潤滑油

釘打機・タッカに使用する潤滑油は、日立釘打機・タッカ用オイルをおすすめします。この油も含め使用可能な潤滑油は下表のとおりです。

油の種類		銘柄および品名
日立釘打機・タッカ用オイル		――――――――〔別途販売しております〕
その他のオイル〔市販品〕	ベビコン油	日立ベビコン用オイル
	エンジンオイル	エンジンオイル各銘柄 SAE10W、SAE20W
	タービン油	タービン油各銘柄　ISO VG32～68（#90～#180）

注 • **潤滑油は必ず上表の油を使用してください。不適正な油を使用すると動作不良の原因になります。**

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へお問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号(NO.)などを下欄にメモしておかれますと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日　　年　月　日	製造番号(NO.)
販売店（TEL）	

全国営業拠点

お客様相談センター　※土・日・祝日を除く　9：00～17：00

●フリーダイヤル
0120-20-8822

※携帯電話からはご使用になれません。
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待たせする場合があります。
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部	●北陸支店
TEL (03) 5783-0626	TEL (076) 263-4311
●北海道支店	●関西支店
TEL (011) 896-1740	TEL (0798) 37-2665
●東北支店	●中国支店
TEL (022) 288-8676	TEL (082) 504-8282
●関東支店	●四国支店
TEL (03) 5733-0255	TEL (087) 863-6761
●中部支店	●九州支店
TEL (052) 533-0231	TEL (092) 621-5772

■ 営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/sales.html

WEBにアクセス

右の QRコードをバーコードリーダー機能付きの携帯端末より読み取ることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

日立工機株式会社

〒108-6020 東京都港区港南 2 丁目 15 番 1 号（品川インターシティ A 棟）
営業本部　TEL（03）5783 - 0626（代）
電動工具ホームページ──http://www.hitachi-koki.co.jp/powertools/

400
部品コード　C99152701　T